



新座市相談支援従事者初任者研修を主催して

新座市基幹相談支援センターえん／安田実子

えん主催の相談支援従事者初任者研修、3回目の研修を無事終わりました。

法定研修の主催はえんにとって初めての挑戦であり、「相談支援専門員」の資格を交付する立場としてこれまで経験したことのない責任の重さを感じる期間でした。研修開催にあたり埼玉県と相談を重ね、新座市からの後援、新座市地域自立支援協議会、新座市基幹相談支援センター、市内相談支援事業所の多大な協力のもと、3年間で合計35名の相談支援専門員の誕生に貢献できました。

この研修は、福祉の分野で定められた期間、知識と経験を積んできた人たちに受講資格があります。法定研修であり決められた時間とカリキュラムはもちろん、プラスしてこれまでの自分自身が重ねてきたことを振り返り、これからの福祉との向き合い方を改めて考える機会となるよう、研修を組み立てました。開催側にとっても貴重な学びの時間であったことは間違いなく、今後も新座市の相談支援専門員全員がお互いに学び合いながら業務を行える環境を作っていきたいと考えています。

—初任者研修を受講して—



えんの訪問ヘルパーとして、利用者さんの気持ちに寄り添い日常生活を直接支えている一方で、相談支援専門員初任者研修では、たくさんのことを学びました。中でも、利用者さんの意思を尊重しつつ、社会資源や地域資源を活用し、総合的な視点が求められることや、多職種連携の重要性が心に残っています。それには、幅広い視野が必要で日々の経験と学びの積み重ねが大切だと実感しています。ヘルパー・相談支援専門員どちらの視点も大事にしながら利用者さんと接していきたいです。

ケアサポートえん／ケアプランえん相談支援兼務／石田法子

今年、ケアマネ6年目に初任者研修を受ける機会を頂きました。介護保険サービスと比べ、利用者の年齢層(児童～高齢)は幅広く、障害の種類も多様で、教育や就労といった多くのニーズに応えながら社会生活に必要なサービス提供を行います。より強い地域社会とのつながりが大切だと感じました。法人の理念でもある「高齢になっても障害をもっても共にこの街で暮らし続けるために」、私達ケアマネや相談支援専門員の役割の大きさを強く感じた研修になりました。



ケアプランえん／川村はるみ